

神代文字

丸山修寛
片野貴夫

人は誰も自分の体を
治すことはできない
治せるのは自分の潜在意識
(インナーチャイルド)だけ！

と

ホツマ、カタカムナ、龍体文字に
なぜインナーチャイルドは
喜ぶのか!!



インナーチャイルド



ヒカルランド

【新たなる治癒の宇宙へ】



インナーチャイルドというか潜在意識とアクセスすることが、が
んとか難病を治す場合は必要です。先生のやっていらっしゃる気
功とか、僕のやっているカタカムナとか、そういういたものがこれ
からは役に立ってくるのかなと思っています。

丸山修寛



私はがん患者1人を治療すると、2ヶ月、体がもとに戻らないのです。最後にやったのは、2万円もらって、100万円使って自分を治した。そのときは肝臓がんの手術できない状態の人で、さわって、終わったらもう自分のリンパが腫れていた。

片野貴夫



片野先生みたいに「ひふみよいびなやこと」とか、「ひとつ、ふたつ、みつつ、よつつ、いつつ、むつつ」とか、カタカムナとか、ホツマとか、いろいろなことをやると、インナーチャイルドが顕在意識に応援されていることに気づく。するとパワーが出る。今までインナーチャイルドだけでは抑えきれなかった病気が、ものすごい勢いで治ってくる。これが本当の意味での治癒です。



今聞いていて、それだけが患者をやって体に受けてないというのは、治療じゃないんだよね。中を変えているから受けない。ですから、その方法でやれば、治療家は受けないのかもしれないね。



治療家はがんになりやすい傾向があります。がんを診ている医者もがんになりやすいようです。それはがんをつくるエネルギーを受けちまうからだと思います。受けないようにするためには、患者さんのインターチャイルドがもっているがんをつくり出しているデータを消すのが一番大切です。



まずは、インナーチャイルドに気づくことです。インナーチャイルド（潜在意識）に気づいて、この子を思いっきり抱きしめてあげるので。気づいたとき、「愛しています」とか「ありがとう」とか、インナーチャイルドにいつも感謝を述べていく。インナーチャイルドとは、もう1人の自分なのです。



「ひとつ、ふたつ、みっつ、よっつ、いつつ、ひっつ、ななっつ、
やっつ、このつ、とー、ひー、ふー、みー、よー、いー、ひー、
なー、やー、こー、とー」という呪文が出てきますが、これは天
津祝詞の太祝詞といって、最強の祝詞といわれています。1から
10までを2回数えています。



兵庫の六甲はカタカムナの聖地ですよね。あの辺はすごい磁場を持っている。僕も小さいころ、六甲とか甲山とか、カタカムナがあるところによく行きました。縁があっただけですね。



あそこにいたアジア族が、4000年前に中国に渡って道教を広めたというので、あしやどうきん蘆谷道満あしやどうきんというのはその一族じゃないかな。



カタカムナも、アシアトウアンというのがカタカムナをつくったと出てくる。



顕在意識が治そうと思うと、作用と反作用の法則で、そこに治さなければいけない状態が現れる。治そうとするのは、根底に不完全であると思う強い意識があるからです。その強い思いに反応して、顕在意識が病気を作り出すのです。



私が成功したのは、檜崎皐月さんの理論で、地面に1メートルの穴を掘って、木炭を30センチ敷き詰め、その後、水をかけろと言うんです。それで私は自分の別荘をつくるときに300キロ入れたんです。そして100キロの竹炭を床下に入れて、家を建てました。



インナーチャイルド（潜在意識）がないと思っている人は、物が全くうまくいきません。自分の頭だけで、マインドだけでコントロールしようとする人は、特にそうなります。



今は、死ぬまで1回も病院に行かないで、神武天皇の127歳まで行けるかどうかやってみようと思っています。条件はちょっと違うけどね。あの時代は空気もよかったし、食べ物にも農薬は使われてなかった。



インナーチャイルドがいるハートからみぞあちにかけて意識を向けて「愛しているよ」「ありがとう」「大好きだよ」「一緒に生きようね」ということが大切です。

第1章

縄文人が残してくれた
言葉の治療法がここに蘇る！

はじめに

21

ひふみ祝詞との出会いとその効果

25

最強の祝詞である太祝詞

30

ひふみ祝詞を使った実践

35

日本語の体の部位の名前に隠された治療法とその実践

39

第2章

治したいのならインナーチャイルド（潜在意識）を
可愛がってあげよう！

67 潜在意識を意識する

77 潜在意識が確信したことが現実になる

83 潜在意識とともに完全性を認めることが人を治す

89 ご神柱と一体になる

92 一瞬で治す「ハフリ」について

96 「クーム」について

100 「カバラとカタカムナ」

106 表カタカムナと裏カタカムナで両カムナが出来た!?

第3章

111 インナーチャイルドから飛び出す龍「カタカムナ龍」

インナーチャイルド（潜在意識）と
アクセスすることが難病の場合は必要！

117 オーリングテストでアクセスしているソースは潜在意識

僕（丸山）はカタカムナが出た六甲、芦屋の出身なんです！

129 日本語は治癒の秘密を込めた上で出来ている！?

131 インナーチャイルドとアクセスした瞬間に腫瘍マーカーがガッと下がる！

140 がんを診ている治療家、医者のがんになりやすい。そうならないためにはどうしたらいい

のか!?

145 炭にはすごい力があるから使い方を間違えてはいけない！

152 ワイヤーブラとかネックレスなど金属には要注意です！

Q & A ..何も知らないで神代文字とかカタカムナに手を出してはいけない!?

イヤシロチ、カタチに集まるエネルギーに助けてもらうことは大事なことです！

オーリングテストは間違ってしまう人がすごく多い！ 内側と直接つながらない限りダメ

なのです！

（本書は、2018年7月25日に東京・飯田橋のヒカルラ
ンドパークで行われた講演会を基に構成されています）

第1章

縄文人が残してくれた
言葉の治療法がここに蘇る！



はじめに

司会 本日は片野先生の公私ともにわたるパートナーである、しかくらかおるさんに最初に進行のことをお話しただいてから、片野先生のお話に移りたいと思います。

では、よろしく願いいたします。

しかくら こんにちは、初めまして。それでは片野貴夫のトークの部を始めさせていただきますと思います。

今日、片野貴夫に初めて会う人も少なくないと思いますので、略歴をお話します。

片野貴夫は、1943年生まれ、現在（2018年）、満75歳です。

千葉県銚子市に生まれ、若い頃は、トラック運転手や釣り堀や雀荘経営など、さまざまな職業を経験しましたが、40歳の時に、大きな転機を迎えました。数回にわたって中国に留学し、気功と太極拳を習得しました。その後、鍼灸しんきゅうの国家資格を得て今に至っています。そのほかの経歴などは奥付に書いてあるのでお読みください。

片野貴夫の提唱する気功法・治療法には、大きく2つ特徴があります。どちらも後で体験していただきます。

まず1つは、ツボに神代文字を書くという衝撃的な方法です。

こちらに画像がありますが、今までの鍼や灸などとは比べものにならないスピード感のある治療です。古代の文字にも多くの種類がありますが、ホツマ文字を使った治療法は2003年ごろから行っていました。

2008年に書の霊智塾の安藤妍雪先生あんどうけんせつに入門し、54種類の神代文字を取得

してからさらに深まっていきました。

皮膚が縮んでツボが面で発生するときは龍体文字を使うという手法を生み出しました。

片野貴夫はツボを探すときにはオーリングテストを使います。自ら開発したセルフオというグッズを使い、イエスカノーかを繰り返しながら、症状を治す箇所（ツボ）を特定していくのです。

片野貴夫の2番目の特徴としては、2018年4月にヒカルランドから発売になった『片野式カムロギ・カムロミうず気功』の書籍に代表するように、治療ではなく神代文字と呪文と渦の気功を使って、自分で行う健康法です。

片野貴夫のモットーは、病気になるってから治すのではなく、病気にならないように予防していくほうが大事だということです。

カムロギ・カムロミうず気功を毎日続けると、体調がガラッと変わるだけでなく、ウエストのくびれが復活したとか、顔が小さくなったとか、足が細くな

つたとか、美容にもよいという報告をたくさんいただいています。
では早速、皆さんに実際に体験していただこうと思います。



ひふみ祝詞との出会いとその効果

片野 私はだいぶ前ですが、千葉県佐倉の麻賀多^{まかた}神社でひふみ祝詞というのをやっているというので行ってみました。その時、初めてひふみ祝詞に出会ったわけです。毎朝1回、十数年唱えていましたが、ただ唱えるだけでは何の効果も実感できませんでした。

そして2005年の12月に、ホツマ文字で書かれた『ホツマツタエ』という本をくれたお弟子さんがいまして、3日で「あわ歌」を覚えてそらで言えるようになった。うになりました。

とりあえず覚えたから、切りよく2006年の元日から、毎日、ホツマ文字

を頭の中に浮かべながらひふみ祝詞をやってみるかと思いました。2段に並べているほうのあわ歌です。こっちのほうが暗記しやすいんです。この、あわ歌の表の中から「ひふみ、よいむなや、こと……」とひふみ祝詞の順に文字を拾っていく。文字を頭の中でイメージして、まぶたのスクリーンに出していくのです。

次の日、2日目にも同じようにやりました。

そうしたらその日の夕方、右足の血海穴というツボの位置が内出血していません。何もぶつけてないのに内出血しているから、デトックスですよ。以前、リウマチになったときも、左足の同じ場所に内出血がで、そこから瀉血しゃけつをしたら、リウマチが治ったことを思い出しました。

このときも自分で瀉血してみたら大量に出ました。

ということは、二十何年も張廣徳先生の氣功をやっているのに、瘀血がまだ残っていたということです。驚きました。

もっと瘀血が残っていると大変だから毎朝やろうと決めて続けたら、3月5日の朝、起きたら左手首の骨がリウマチになっていたんです。ひどく骨が膨らんでいた。

ここは大腸経だいちょうけいの通り道です。大腸経の通り道がリウマチになったということは、大腸がんをよけたという意味になります。

元日から始めたのですから、たった65日間で、親の遺伝体質が瘀血となってリウマチという形で出てきたということです。65日、ひふみ祝詞をホツマ文字で唱えただけで出たんですから、これはすごいと思いました。

当時、私は、がんを治すために般若心経を30回唱えろと言っていました。そのとおりに行って白血病が5年で完治したクライアントがいたんですが、般若心経だけじゃダメだ、ひふみ祝詞も足さなきゃダメだと私は言いました。

ひふみ祝詞は3分ですからね。般若心経を30回唱えると1時間かかります。

その人は大企業の社長で元医者なんですが、ひふみ祝詞はやらなかった。こ

んなに簡単なのにどうしてやらないのかと思ったら、それは寿命が来ていたんですね。寿命が来ていると、霊界のほうでやらせない。

私は何度も言うのが嫌いです。自分の息子には1回、親には3回しか言わない。一応長いつき合いなので、その人には3回言ってやりました。でもやらない。これはダメだなと思ったら、2年半で死にました。

どんなにいいことがあっても、寿命が来ているときには霊界がやらせないんです。これは絶対いいからと言っても、絶対やらない。それでみんな死んでいきます。

私は親の遺伝体質をよけたから、絶対的な自信を持ちました。

それで2018年の4月に『片野式カムロギ・カムロミうず気功』という本を出して、教室で教えました。

そうしたら2週間目に、いきなりリウマチ様の腰痛ようが起きた。もうギャーッと言うほど痛い。

うず気功の本を出したのに、この腰痛は何だよ。これはショックだ。2週間でギックリ腰じゃ、シャレにならない。冗談じゃない。真剣になって調べたら、70年前、5歳の時、手術した際の残りが腰に入っていたんです。

これはえらいことになったぞと思いました。ここがリウマチだと、朝、ほとんど動けません。

困ったなと思って、丸山さんからもらったカタカムナのシートに寝たら、翌朝、動けた。リウマチの痛みが取れたので驚きました。取れたんじゃないくて、そのときだけ、シートに乗ったときだけ治ったんです。

リウマチというのは、寝込んだら終わりです。止まらなければ必ず治ります。動き回っていたら絶対に治る。

いまだに右の尻に残っています。左の尻から腰に行つて、今度は右の尻に入つて、今もクリクリしています。

最強の祝詞である太祝詞

片野 「ひとつ、ふたつ、みつつ、よつつ、いつつ、むつつ、ななつつ、やつつ、
このつ、とー。ひー、ふー、みー、よー、いー、むー、なー、やー、こー、と
ー」という呪文が出てきますが、これは天津祝詞の太祝詞あまつのりとといって、最強の祝
詞と言われています。1から10までを2回数えています。私はこの意味を解釈
してみました。

まず、初めの「ひとつ、ふたつ、みつつ……」という部分。これは人生訓で
す。「ひとつ」というのは、人になって出てきた場合という意味です。

「ふたつ」というものの「た」。「た」は丸に横棒が入っていますから、男と女、北

極と南極、プラスとマイナス。両極のことを「た」といいます。膨張と収縮が出てくる。

「みつつ」というのは、三つ子の魂百までといいますが、意思を持つ、ということです。わかりやすい例をあげましょう、例えば、3歳のときにアトピーでかゆい子供が、「よし、医者になろう」と決意したとします。

それで世の中に出るから「よつつ」。

「みつつ」「よつつ」は促音で、真ん中の「つ」は、小さな「っ」で表現されていますが「いつつ」は、小さい文字じゃなくて「つつ」と2回大きい文字になる。これは5歳になると、ホツマでは男は袴はかま、女はかつぎをかぶってお祝いをすると言います。男と女に分ける。「つつ」というのは分けるとい意味です。そして「むつつ」。これで医者になろうと思って国家試験を受けたら、落ちちゃった。「むつつ」の「む」は「無」。落ちちゃった場合はゼロのほうですね。もう1つ「む」には、「生む」の「む」という意味があります。

「生む」の意味をとって国家試験に受かったとします。そうすると今度「ななつつ」は「なな」と2回になっているでしょう。最初の「な」はひな（雛）の「な」です。インターンという意味ですね。まだ医者じゃない。『ホツマツタエ』には、「人なる前」と書いてあります。次の「なつ」と出るのが名医です。

名医になったら、当然、カネも名誉も女も全部つきますね。それで「やつつ」つまり安らかになり、生活が安定するわけです。

安定した後、「ここのつ」。人は調子に乗ると、コロコロと野原を転がっていくようにずっこけちゃうんです。野原は傾斜のことです。今は広辞苑で「原っぱ」も「野原」も同じ意味の言葉になっていますが、「野」というのは平らではなく、芝すべりをするような傾斜のあるところ。それで野原を転がって落っこちちゃう。

野原を転がることなく、達成できた人は、つむじの戸（と）が開いて宇宙（う）と交信するので「とう」。

ウソでもいいから「とうになりました」とか「とうがあります」と言えば、エネルギーが入ってきます。それがひっくり返って「ありがとう」になっているのです。

「ありがとう」の語源を言った人はいないでしょう。

このままの「とう」でいいんです。この戸が開いて、宇宙と交信すると「とう」。「とうになりました」と言うと、セルフオ（オーリングテスト）ではこんなに開きます。「ありがとう」より広いでしょう。「ここが開いてとうになりました」と言ったほうが価値があるんです。

その後につく「ひふみよいむなやこと」というのは体の重要な臓器の順番になっています。

「ひふ」は皮膚。皮膚が本体ですよと言っているんです。

「み」は肉でもいいです。皮膚の次は肉。2番目は肉です。

「よつつ」というのは四肢のよどみ。よどんだリンパのことです。

「い」というのは意識、感情です。

「む」は六ワタ（内臓）なんです。六臓六腑。

「な」は顔にある7つの穴。目に2つ、耳に2つ、鼻に2つ、口に1つ。

そこまで全部正常ならば、安らぐから「や」で安定するんです。

「こ」は、体の調子がよければ声が高く出るし、体の調子が悪ければ声が低くなる。

そして「と」。入り口の「戸」。つむじから宇宙のエネルギーが出入りするところ。

こういうふうに、「ひとつ、ふたつ……」は人生訓、「ひふみよいむなやこと」は体の重要な臓器の順番です。意味はわからなくてもいいんです。言うと「体の中の水」は知っていますから、ちゃんと反応してくれます。